

KEY
PERSON

仁

・義・礼・智・忠・信・孝・悌



(株) 銘煌 代表取締役
秋本 陽奈

「みんなが助けしてくれたお陰で
ここまでくることができました」

コンサルティング業務をメインに手掛け、主に経営や資格について、悩みを持つ人のサポートを行う秋本社長は、自身の半生において周囲の助力が不可欠だったと語る。社長が今も尚、感謝している人物の一人が、アルバイト時代の勤め先の経営者だ。起業前、社長にはまだ社会人としての経験が乏しかった。しかし、起業を考えている旨を相談すると、その会社が長年行っていたビルの清掃業務を任せてくれたという。独立に際し不安もある中、そんな人とのつながりをとても心強く感じたそうだ。それから業務の幅を広げられた社長は、社を発展へと導きながら、人の力になれるよう邁進していくのだろう。

株式会社 銘煌

千葉県柏市大津ケ丘

コンサルティング業をはじめとする 多角経営でさらなる発展を目指していく

「来日以降、様々な苦難を乗り越え
独立開業に至ったのですね」

志垣 太郎

俳優

対

Business

談

Feeling

自立心を養うことを促し、愛娘の巣立ちの一助に

▼中国出身の秋本社長は、コンサルティング業務の他、飲食店の開業も視野に入れるなど、多角的な経営で日本での発展を目指している。その経営手腕があれば、中国でも実績を残せただろう。では何故、日本を選んだのか？ その理由の根幹には、自立心を養ってほしいという両親の意向があった。

▼いくら大切に想っても、ずっと側にいられるとは限らない——両親はそのことを理解していた。そこで一人で生き抜く力を養ってほしいと、敢えて離れて暮らす選択をとったのだ。その気持ちを理解している社長は、日本語に接する機会を多く得られるよう図ったり、生活費捻出のためアルバイトを掛け持ちしたりと、大成するにはどうすべきかを自分で考え行動し、独立開業するまでに至った。異国の地で一本立ちを果たした社長は、今後も両親の期待以上の成果を残していく。



「周囲の皆さんが支えて下さったお陰で
ここまで歩んでこられたと思います」

代表取締役

秋本 陽奈 (劉璐陽)



■会計・経営コンサルティング業を主に手掛けている『銘煌』。同社は、周囲とのつながりを大切にすると共に、多角的な分野での活躍も目指している会社だ。本日は、秋本社長のもとを俳優の志垣太郎氏が訪問し、お話を伺った。

来日から努力を積み重ねた後、
新たな可能性を求め起業を決意

志垣 早速ですが、秋本社長の歩みから伺います。ご出身はどちらでしょうか。

秋本 中国出身です。自立心を大切にする両親や、日本語を話せた祖父の影響で、高校卒業後に来日。東京都にある日本語学校に通うことになりました。ただ、土地勘がないことはもちろん、日本語を全く話せなかった私は、登校初日、本来15分程度しか掛からない駅から学校への道のりに、3時間半ぐらい掛けてしまったんです(笑)。あの時は本当につらかったですね。

志垣 異国の地で右も左も分からないの

は当然です。諦めずに登校されたことが素晴らしいと思いますよ。日本で実際に生活されてみていかがでしたか。

秋本 同じく留学生の人たちが数多くいて、馴染みやすい雰囲気でした。ただ、同郷の人たちとばかり接していると、どうしても母国語を使ってしまいます。すると、日本語を覚えることに支障が生じてしまう可能性がある。ですから、少しでも早く日本語を習得できるようにと、あえて同郷の人たちと距離を置いたこともありましたね。

志垣 自身の成長のため、ストイックに励んでおられてたわけですね。

秋本 そうですね。中国にいたころより、真面目に勉強していたと思います(笑)。

日本語の勉強もさることながら、大変だったのは生活費の捻出です。と言うのも、自立できることが留学の一つのテーマだったために、自分の力で生活していく必要性があったんです。あのころは同時期に5つのアルバイトを掛け持ちし、何とか生活を送るという日々を過ごしていました。

志垣 5つもですか！ 寝る時間もないほど忙しかったのでは？

秋本 学校にいき、勉強に費やす時間も必要だったので大変でした。ただ、アルバイト先で日本の方々と接するのは、日本語を覚える良い勉強になりました。そんな日本語学校での日々を過ごす中で考えなくてはいけないのは、進路について。私は専門的な技術力を身につけたほうが将来有利に働くと思いい、卒業後は美容専門学校に入りました。日本語学校と違い、外国人は10人もいませんでしたが、運良くその学校の副理事長は中国語を話せる人でしてね。その副理事長は私

の出身都市のこともご存知でして、とても良い友好関係を築くことができました。ただ、業界への知識を深めていく中で、次第に自分には違う道が合っているかもしれないと思うようになりました。副理事長は、私のことを思って、国際電話で父と進路について相談に乗って下さり、とても嬉しかったのですが、悩んだ末に学校を辞めることを決断しました。そして、従業員として会社勤めするのではなく、起業に挑戦してみることにしました。

周囲の後押しを背に受け成長し
多角経営でさらなる上を目指す

志垣 異国の地での起業は、とても勇気のいる決断だったと思います。どのような会社を始められたのですか。

秋本 清掃会社です。日本語学校に通っていたころから美容の専門学校を辞めるまで、ずっと同じ清掃会社でアルバイト

を続けていました。その会社の社長に起業を考えていることをお話しすると、ビルの清掃業務を任せると言って下さったんです。お陰様で、設立当初からお仕事をいただけました。

志垣 それは心強い！ きっと、社長を信頼されていたからこそ、大事な仕事を任せて下さったのでしょうか。

秋本 そうであれば嬉しいですね。日本に来てから、苦しい経験はたくさんありました。それでも歩みを止めずに進んでこられたのは、周囲の皆さんが助力して下さいましたお陰です。

志垣 社長が魅力的な方だからこそ、自然と人が集まるのだと思います。そんな社長ご自身の強みについて伺っても？

秋本 自慢できるほどのものはありませんよ(笑)。ただ、人に恥じない生き方を続けていこうという強い意志を持っていることが良い結果につながっているかもしれません。そんな信念と、そして周囲への感謝を胸に経験を積み重ねていく

中で、業容の幅を広げることもできました。現在は、投資や会社経営、さらには在留資格の申請などのサポートといった、会計・コンサルティング業務をメインに事業を推進しております。

志垣 順調に成長を続けておられるのですね。御社の今後がとても楽しみです。

秋本 ありがとうございます。現在は、弁護士や司法書士といった資格を持つ人たちとも手を取り合っており、さらに大きな仕事にも着手していきたいと考えています。加えて、飲食店の経営なども手掛けてみたいですね。スタッフとお客様が信頼関係を紡げるような、人情味溢れるお店をオープンしたいんです。事業の進め方など、悩んでしまうことはまだまだありますが、今後も周囲の皆様と一丸となり邁進して参ります。

志垣 是非頑張ってください。御社の益々の発展を、陰ながらではありますが応援させていただきます！

(2017年6月取材)